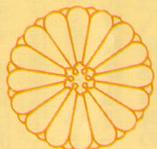




SANZEN-IN TEMPLE



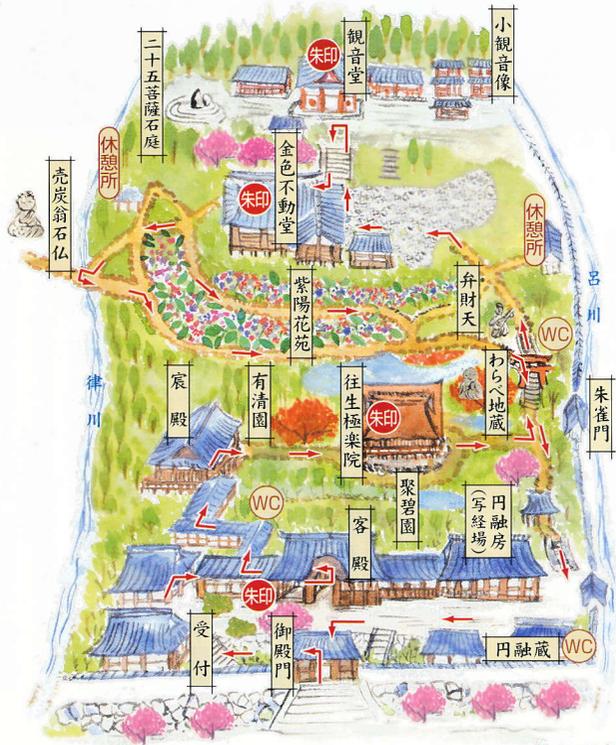
京都大原
三千院

一隅を照らす

これ則ち国宝なり



御殿門



【矢印:順路】

●参拝時間 12月~2月…… 8:30~16:30
3月~11月…… 8:30~17:00

三千院門跡 寺務所

〒601-1242 京都市左京区大原来迎院町540
TEL.075-744-2531 FAX.075-744-2480
URL <http://www.sanzenin.or.jp>



阿弥陀三尊像(国宝)

大原の地は千有年前より魚山ういざんと呼ばれ、仏教音楽(声明)の発祥の地であり、念仏聖(ねんぶつせい)による浄土信仰の聖地として今日に至ります。創建は傳教大師最澄上人(さいじょうじゆん)(七六七)八三二)が比叡山延暦寺建立の際、草庵(そうあん)を結ばれたのに始まりです。別名、梶井門跡・梨本門跡とも呼ばれる天台宗(たいたいしゅう)五箇室門跡の一つで、当院は皇子、皇族が住職を勤めた宮門跡です。現在の名称は、明治四年法親王還俗にとともに、梶井御殿内の持仏堂に掲げられていた靈元天皇宸筆(れいげんてんのうしんぴつ)の勅額(ちよくかく)により、三千院と公称されるようになりました。



宸殿 御懺法講道場



復元模写 往生極楽院舟底型天井画(円融藏内)



冬の往生極楽院

往生極楽院

寺伝では寛和二年(九八六)に「往生要集」の著者で天台浄土教の大成者である恵心僧都源信が父母の菩提のため姉の安養尼と共に建立したと伝えられます。お堂に比べて大きい「阿弥陀三尊像」(国宝)を納める工夫として、天井を舟底型に折り上げています。現在は肉眼ではわかり難いものの、その天井には極楽浄土に舞う天女や諸菩薩の姿が極彩色で描かれています。平成十八年秋開館の重要文化財収蔵施設「円融藏」の展示室に復元模写されて、創建当時の極楽浄土の面影を知ることが出来ます。中尊の阿弥陀如来は来迎印を結び、右の観世音菩薩は往生者を蓮台に乗せる姿で、左の勢至菩薩は合掌し、両菩薩共に少し前屈みに跪く「大和坐り」で、慈悲に満ちたお姿です。

聚碧園・有清園

聚碧園は客殿よりの池泉観賞式庭園で江戸時代の茶人・金森宗和の修築と伝えられます。

本堂の宸殿より極楽院を眺める有清園は、中国の六朝時代を代表する詩人、謝靈運の「山水清音有」より命名された池泉回遊式庭園です。杉木立の中、苔の大海原と紅葉が有名です。

宸殿・客殿

宸殿は後白河法皇により始められた宮中御懺法講(舎明)による法要を今に伝える道場です。ご本尊は傳教大師作と伝えられる秘仏、薬師瑠璃光如来です。又、西の間は歴代住職(法親王)をお祀りする内仏で、東の間には玉座を設え、襖には下村観山筆の虹が描かれ、虹の間とも呼ばれます。客殿は平安時代、龍禅院と呼ばれ、大原寺の政所でありました。豊臣秀吉が禁裏修復の余材をもつて修築されました。

金色不動堂・観音堂

紫陽花苑内の金色不動堂は、智証大師作と伝えられる秘仏金色不動明王を本尊とし、平成元年に建立された、ご祈願の根本道場です。又、その上の観音堂には、身の丈三メートルの立像の観音様がお祀りされています。観音堂の周りには、ご縁を結ばれた方々の小観音像が安置され、観音堂横には補陀落浄土を再現した石庭、二十五菩薩慈眼の庭が配られています。

円融藏

平成十八年秋に開館した重要文化財収蔵施設で、展示室を備えています。その天井には往生極楽院の舟底型天井画の復元模写を設え、また所蔵重要文化財の展観を行い、毎年春には特別展を開催いたします。

写経のおすすめ

客殿先の円融房では毎日ご希望者に写経をしていただくことができます。尚、毎月二十四日に写経会が行われています。お気軽にご参加下さい。

観音堂と石庭二十五菩薩慈眼の庭



金色不動堂



紫陽花苑(あじさいえん)

